



ニュースレター限定 社長コラム

### 『AIは何に使っていますか？』

代表取締役 近藤 千奈美

AIが加速度的に日常に普及してきました。調べ物はもちろんのこと、最近ではAIエージェントとして繰り返し作業を自動化するPC内のロボットとして活用が始まりましたね。

私がいちばん活用しているのは、経営課題の壁打ち相手として。たとえばこんな問いを投げかけます。

「入社後に活躍してもらうために、面接でどんな具体的な質問をすべきか」

すると、行動特性を引き出す質問、価値観を確認する質問、自社の文化に合うかを見極める質問——など、自分では思いつかなかった切り口が次々と出てきます。

海外では経営者がコーチやアドバイザーと定期的にセッションを持つ文化がありますが、AIはその"いつでも気軽にセッションができる仮想メンター"ではないでしょうか。

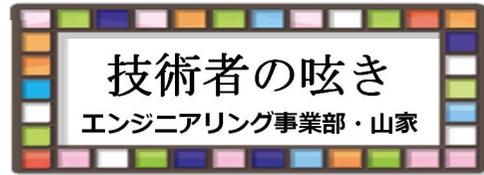
ポイントは、答えをもらうことより、自分の考えを整理する道具として使うこと。AIと対話しながら「自分はこう思っていたんだ」と気づく瞬間が、意外と多いんです。

皆さんはAIを何に使っていますか？





### 『目標に向かって』



### 技術者の眩き

エンジニアリング事業部・山家

FIS ユースジャパンカップに友人の子供が出場する。本人の才能もさることながら、目標に向かって努力を惜しまない姿を知っている。もう一人も世界で活躍する姿を夢見て弛まない努力をしている。彼らは目標を掲げ、そこにたどり着くまでの道のりを自分で立てている。高い目標を掲げることが目標ではなく、達成することを目標としている。そうしたぶれない自分の考えと信念を持っている。一方で高い目標を掲げること自体を目標にしている人は道のりが分からず周囲に流されやすい。失敗してもなぜ失敗したのか自分で考えないため同じ失敗を繰り返す。自分はそうならないようにと再認識させられた。



### 社員の眩き

S&S 課・箕輪

### 『プレジャーフォレスト ではない?!』



先日、「さがみ湖 MORIMORI」へ行ってきました。「相模湖ピクニックランド」から「プレジャーフォレスト」を経て、今の名前に生まれ変わった施設です。当日は曇り空でしたが、桜がちらほらと咲き始め、春の訪れを感じることができました。山頂まで徒歩ルート of 急勾配には苦笑いしながらも、眼下に広がる相模湖の景色に感動！夜には園内一面にイルミネーションが輝き、幻想的な世界が広がっていました。曇り空でも十分素敵な一日でした。

### ニュースレター限定 営業マンのコラム

### 『一本の葦であるために』

グローバルビジネス事業部 後藤 (Mr.ベースマン)



先日 AI に難解な文書を要約してもらいました。

いやいや・・・すごいですねえ・・・1分もかからないうちにわかりやすくまとめてくれました。こんな文章、行きつ戻りつして内容確認に1日かかりそうなものを、ほんの数秒で。まさに効率化の極みに来ていると感じました。膨大なデータ処理や、長文の要約はもう AI に任せておけば大丈夫ですね (笑)

さて、そこで我々にできること、それは要約を理解してそれに対する次の指示を出すことです。まあ、AI は賢いので、次はこうしましょうか？と的確な提案してくれます。ここで思ったのは、このペースで物事を進めていくと、私たちは考えることまでも放棄して、AI の提案するベストな方向へ物事を進めてしまうのでは？ということです。

これは明らかに「利用」ではなく「依存」です。これは避けたい。前から書いていますが、何か便利を手に入ると、代わりに失うものがあります。機械の進歩は肉体的な手間を肩代わりしてくれて、その分別の作業をできるようになりました。しかし、考えることは人間として最後の砦ではないでしょうか？

情報を鵜呑みにするのではなく、しっかりと自身で考えて、回答を出す、この当たり前の作業が今、AI に委ねられようとしています。昭和の人間としては警鐘を鳴らしたくなりますね。



思考停止・AI コントロール

教えて！

## 翻訳 Q&A



**Q: 本を構成する要素に関する英語を学びたいです。**

**A. 本の中身は、本文 (body) 以外に様々な要素から構成されています。  
洋書を読む際に役立つ、構成に関する英語をいくつか紹介します。**

**preface** 「序文・前書き」のことで、著者が本の概要や目的をここに述べます。通常、目次の前後に位置します。これよりもう少し本文に踏み込んだ内容を“introduction (導入)”パートに記載します。

**foreword** こちらも「序文」という意味ですが、こちらは著者以外の人物によって書かれた文章を指します。短い文章ですが本の売れ行きを左右し得る要素であるため、出版業界では重要視されています。

**acknowledgements** 関係者への感謝の気持ちを述べる「謝辞」のことで、書籍の巻末に位置することが多いです。論文でも結論を述べた後に謝辞を記載することが一般的です。

**dedication** 「献辞」という意味で、特定の人に捧げるために記す短い言葉のことです。  
“In memory of my father. (亡き父に捧げる。)”という厳かなものから  
“To my cat, for not stepping on the keyboard too often. (私の猫へ。キーボードをあまり踏まないでいてくれたことに感謝して。)”  
というようなユーモアのある表現も近年よく見られます。序文の前に配置されることが多いです。

上記の項目からは作者の秘めた想いや執筆の裏側が垣間見えることがあります。いずれも短い内容で構成されていることがほとんどなので、普段読み飛ばしている方もぜひ目を通してみてはいかがでしょうか。



コンテックス HP  
下記 QR コードまたは  
『技術翻訳  
コンテックス』で検索！



HP にバックナンバーが  
掲載されています♪